

生誕200年 ミレー展

— 愛しきものたちへのまなざし —



Jean-François Millet

《子どもたちに食事を与える女（ついでみ）》 1860年 油彩・カンヴァス リール美術館蔵
© IHN-Grand Palais / Jacques Quercq d'Henripret / distributed by AMF

50^e ANNIVERSAIRE
DU PARTENARIAT CULTUREL
FRANCO-JAPONAIS
1924-2014



2014年 7月19日[土]—8月31日[日]

開館時間/午前9:00~午後5:00 (入館は午後4:30まで) 休館日/7月22日(火)、28日(月)、8月4日(月)、25日(月)

観覧料 = 一般1000(840)円 大学生500(420)円
()内は20名以上の団体料金、前売料金、宿泊者割引料金
小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の児童・生徒は無料
県内65歳以上の方は無料(健康保険証等持参)
障害者手帳をご持参の方はご本人と介護の方1名が無料

本特別展のチケットで、常設展示の
ミレー作品も観覧できます。

前売券取扱 = 山梨県立美術館、山HYBS本社受付、山HYBS富士吉田総支社、ローソン、セブン-イレブンにて販売(4/22~7/18)

主催 = 山梨県立美術館 山梨日日新聞社・山梨放送 生誕200年ミレー展実行委員会

特別協賛 = **ダイワハウス**

後援 = 在日フランス大使館/アンステイチュ・フランセ日本 NHK甲府放送局 テレビ山梨 テレビ朝日甲府支局
朝日新聞甲府支局 毎日新聞甲府支局 読売新聞甲府支局 日本経済新聞社甲府支局 産経新聞社甲府支局
共同通信社甲府支局 時事通信社甲府支局 山梨新報社 日本ネットワークサービス エフエム富士 エフエム甲府
企画協力 = ホワイトインターナショナル

山梨県立美術館
Yamanashi Prefectural Museum of Art

記念講演会①

ミレーを取り巻く環境や風土との関わりについての講演とトークセッション

日時/7月19日(土) 午後2:00~

講師/井出洋一郎氏(府中市美術館館長)

ルイーズ・ル・ギャル氏

(トマ=アンリ美術館館長)

会場/総合実習室(申し込み不要、聴講無料)

記念講演会②

社会的な背景を踏まえた、絵画における農民像や家族像の需要についての講演

日時/8月2日(土) 午後2:00~

講師/馬淵明子氏(国立西洋美術館館長)

会場/総合実習室(申し込み不要、聴講無料)

キッズ・プログラム

ミレーの作品に描かれる羊や羊毛の文化について、楽しみながら理解を深めるレクチャーと実技

日時/7月30日(水)

①10:00~12:00 対象:小学生

②13:30~15:30 対象:中学生

講師/(株)アナンダ 西岡優子氏

定員/各回30名

申込期間/7月8日(火)~7月29日(火)

●キッズ・プログラムの申し込みについて

Faxまたは電話にてお申し込みください。

①参加希望コース名(午前/午後)

②氏名(ふりがな)

③年齢(学校名・学年)

④電話番号(Fax番号)

⑤参加される保護者名を必ず伝えてください。

申し込み先

山梨県立美術館「キッズ・プログラム」係

Tel. 055-228-3322 Fax. 055-228-3324



[交通アクセス]

◎中央自動車道甲府昭和インターより

・料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、徳行立体南交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貫川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

◎JR中央本線甲府駅より

・甲府駅バスターミナル(南口)6番乗り場から発車するすべてのバスで約15分、「県立美術館」下車。

・タクシーで約15分(料金1,700円程度)

◎昇仙峡より

・敷島営業所行バスで「県立美術館」下車。

山梨県立美術館

Yamanashi Prefectural Museum of Art

甲府市貫川1-4-27 〒400-0065

Tel. 055-228-3322 Fax. 055-228-3324

http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/



1

© Daniel Sohier



2

Lent by Amgueddfa Cymru - National Museum Wales

山梨県立美術館開館35周年記念/山梨放送開局60周年記念

生誕200年ミレー展

— 愛しきものたちへのまなざし —

2014年は、ジャン=フランソワ・ミレー(1814-1875)の生誕200周年にあたる年です。本展はこれを記念し、国内外のミレー作品約80点によりミレーの画業を回顧します。

ミレーは、それまで絵画の主題とはなりえなかった農民の労働の様子を見つめ、宗教性をもたえたた荘厳な農民画の世界を生み出しました。その背景には、フランス初の風景画派の誕生の地となったバルビゾン村の自然豊かな制作環境がありました。また、幼い頃から育まれた自然に対する畏敬、身近なものへの慈愛がミレー作品の根幹を成しています。ノルマンディーの寒村で過ごした子供時代のまなざし、妻と9人の家族に対する父親としてのまなざしを感じ取ることができます。

本展では、初期から晩年までの作品をご紹介しますとともに、家族の肖像や生活の情景を描いた作品に焦点をあてることで、ミレーの作品世界の新たな広がりをお楽しみいただけます。



3

Lent by Amgueddfa Cymru - National Museum Wales



4

© Photo: C. Devleeschauwer

1. 《部屋着姿のポーリーヌ・オノ》1843-44年 油彩・カンヴァス トマ=アンリ美術館蔵

2. 《農民の家族》1871-72年 油彩・カンヴァス ウェールズ国立美術館蔵

3. 《種をまく人》1847-48年 油彩・カンヴァス ウェールズ国立美術館蔵

4. 《クーザン村》1854-73年 油彩・カンヴァス ランス美術館蔵